

和泉小学校・いずみこども園等の施設整備について

2025年2月

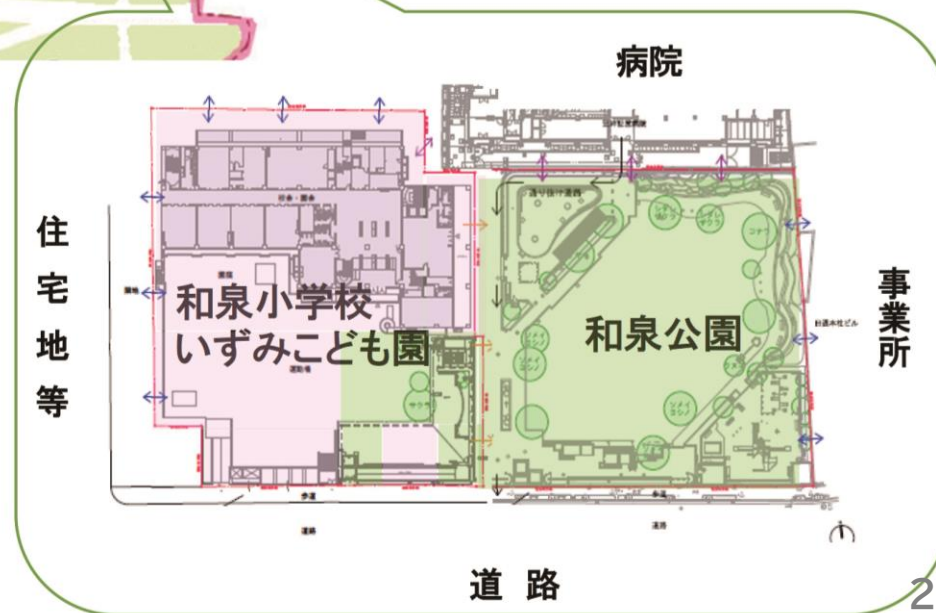
背景と目的

- 和泉小学校・いずみこども園等を有するちよだパークサイドプラザは、竣工から37年が経過し、当該施設に老朽化等の課題があることから建替えに取り組むこととしており、小学校・こども園の機能継続の観点等から、現地建替えではなく、区立和泉公園敷地への移転建替えを行う方向で検討を始めています(公園との敷地交換、一体的整備)。



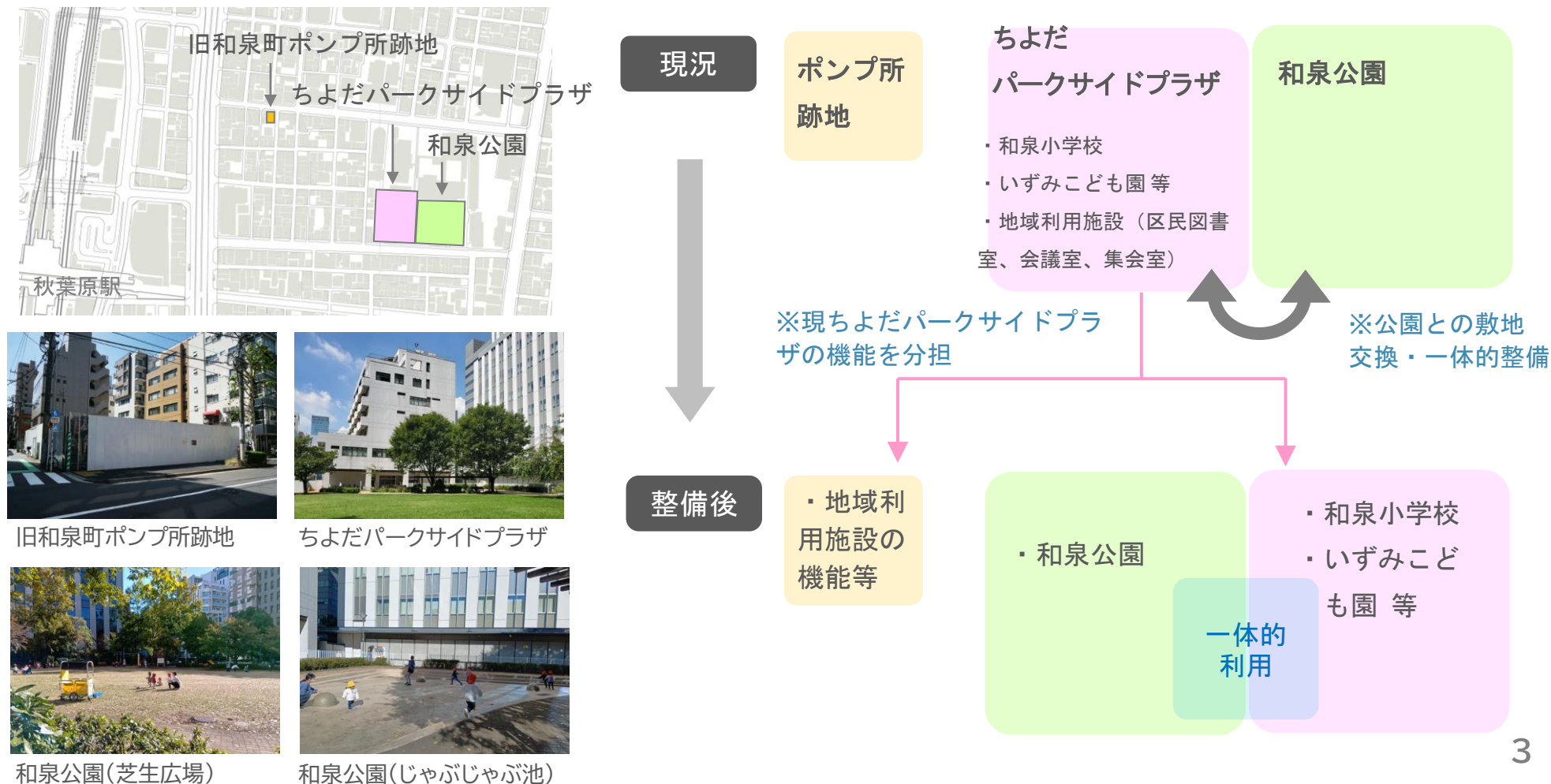
【施設の沿革】

- 旧佐久間小学校敷地を利用し、小学校と区民施設とを複合化した施設(ちよだパークサイドプラザ)として昭和62年(1987年)7月に竣工、9月に開設。
- 平成5年4月には、旧佐久間小学校と旧今川小学校を統合し再配置した「和泉小学校」として開校。
- 平成14年4月には、佐久間幼稚園といずみ保育園からなる幼保一元化施設として「いずみこども園」を新たに開設。
- 現在は、小学校・こども園の他、集会室等の地域利用施設(ちよだパークサイドプラザ)と児童館的機能(いずみこどもプラザ)を有している。



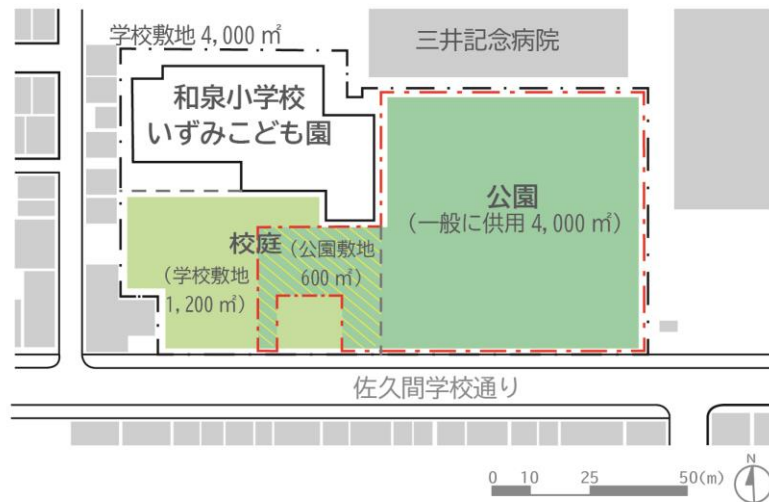
整備イメージ

- 小学校・こども園の機能継続の観点から学校等施設の和泉公園敷地への移転建替えを検討
⇒ 公園との敷地交換・一体的整備
- 限られた敷地内での整備効果の最大化を図るため、校庭と公園の兼用(タイムシェア)といった一体的利用や、旧和泉町ポンプ所跡地に現ちよだパークサイドプラザの機能を分担すること等も検討

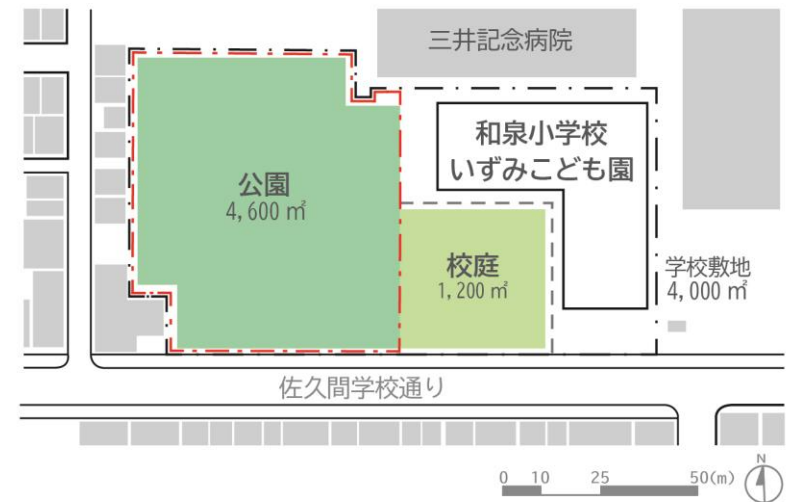


公園との敷地交換・一体的整備について

- 敷地交換により仮校舎の建設や児童・園児にとって負担となる一時移転が不要になります。また、一体的整備により新たな施設と公園を合理的に配置し、全体の機能の向上を図ることができます。
- 一方、それぞれの公共施設には設置の目的があり、利用者等に違いもあります。特に公園については、敷地の交換後、現在の都市計画決定面積(約4,600㎡)を一般利用者に供用させる必要があります。



現在の校庭: 学校敷地1,200㎡+公園敷地600㎡=1,800㎡



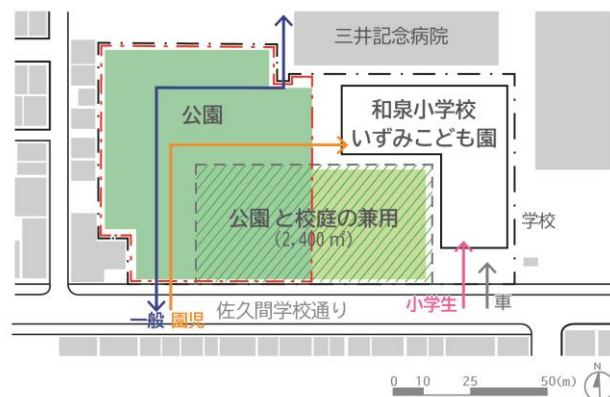
学校敷地(4,000㎡)の中で校庭を設けるため
面積が小さくなってしまう

校庭と公園の兼用(タイムシェア)
による利用可能面積の拡大※

※両敷地に跨って兼用エリアを設定。平日昼は学校の校庭、それ以外の時間帯は公園利用で使用することで、双方にとっての利用拡充を図る。ただし、運用方法や費用、セキュリティの確保に十分留意する必要がある。

参考:公園と校庭の兼用(タイムシェア)を考慮した配置形態の検討

※都市計画公園 ■4,600㎡、学校敷地内校庭 ■1,200㎡、両者に跨る兼用エリア ■2,400㎡を共通として、レイアウトのパターンを整理。
 ※各レイアウトとも移転建替え完了後の姿を表現。工事期間中は、公園閉鎖となり、新校舎の校庭も学校敷地内だけで確保。



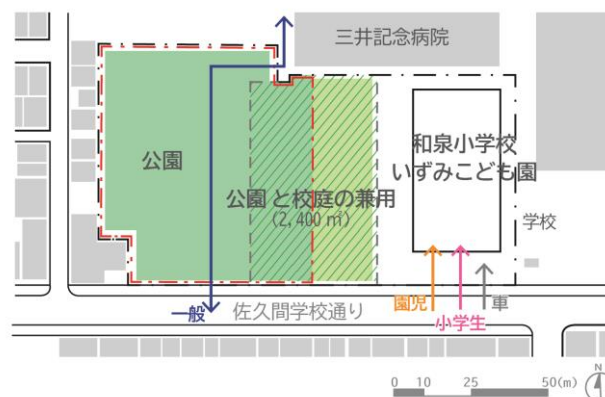
校舎:L字パターン
兼用エリア:南中央

メリット

- ・校庭に面する部分が長く、校庭と校舎との一体感がある

デメリット

- ・道路から離れた奥まった箇所に公園が位置する、道路側間口も狭い
- ・校庭の防球ネットが道路側に与える圧迫感大きい



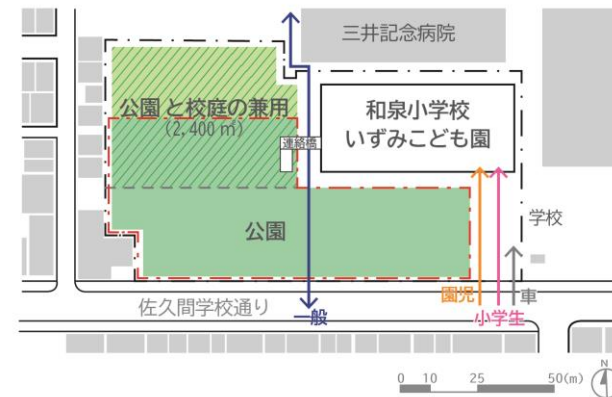
校舎:矩形—東パターン
兼用エリア:中央

メリット

- ・公園、公園と校庭の兼用エリア、それらをあわせたエリアがそれぞれまとまった整形となる

デメリット

- ・公園と施設の利用動線がはっきり分かれるため、施設と公園の関係性が薄れる



校舎:矩形—北パターン
兼用エリア:北西

メリット

- ・公園の間口が広く、出入りしやすい
- ・校庭の防球ネットが道路から離れるため、道路側が開放的

デメリット

- ・通り抜け動線確保のため、校舎から校庭への動線が歩道橋等になる
- ・冬季における公園の日当たりが比較的悪い

スケジュール

